

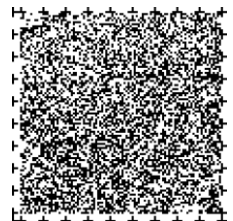
ぼくがきずついたこと

「グリーンピース。」

学どうに行つたさいしよの日、ぼくのふくが緑色だったから、そんなあだ名をつけられました。ぼくは、いやだなと思ひました。でも、「グリーンピース」というあだ名を言つた人は、ぼくの名前を知らなかつたから言つてゐるのだと思ひました。

さいしよは、「グリーンピース」とよぶ人は、一人だったからあまり気にしませんでした。けれども、だんだんと多くなつてきて、六人くらいの子がぼくのことをあだ名でよぶようになりました。ぼくは、すごくすごくいやな気持ちになつてきました。

それに、ぼくの友だちのことまで「グリーンピース・ツー」とよぶようにな



りました。ぼくは、その友だちがかなしそうな顔をしているのを見て、思いきって、

「その子は、Aくんって言うんだよ。」

と言いました。その次の日には、あだ名を言った人たちに、

「ぼくにも、きちんとした名前があるんだよ。」

と言いました。

その次の日、ぼくたちのことを「グリーンピース」とよんでいた人たちがAくんの名前とぼくの名前をおぼえてくれました。ぼくは、心がすっきりし、うれしくなりました。

ぼくたちにあだ名をつけたのは、ぼくより上の学年の人たちでした。ぼくは、学年が上がっても、同じようなことをしたくないと思いました。もし、一年生の名前がわからなかったときは、

「きみの名前は何て言うの。」

とやさしく聞いてあげられるお兄さんになりたいと思います。

